

お茶の水女子大学 ライフワールド・ウォッチセンター  
増田研究室

2011年3月1日

## 1. 理念と運営

知の市場の連携機関かつ開講機関であるお茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター増田研究室は知の市場の創始者として、知の市場の理念と運営の基本方針を共有し、受講者、講師、友の会、開講機関、連携学会、知の市場事務局などと協働しながら活動を展開している。そして、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という知の市場が掲げる4つの教育の基本方針の下で活動している。

また、お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター増田研究室は、学生や院生に対する学校教育と社会人教育を切れ目なく連結しさらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指す知の市場の目標を重視している。さらに、社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支えていくことによって教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく真の教育立国を求めて、津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって進んでいく道を切り開こうとする知の市場の挑戦を高く評価している。

こうした基本認識に立ちつつお茶の水女子大学という背景を踏まえて、高度な教養教育を行うことを主眼としながらも知の市場の創始者として孵化（インキュベーション）機能を果たすことを目標としている。具体的には、新規科目の開拓などによる新たな分野への展開と社会の幅広い人々や機関との間の新たな協力関係の構築など新規開拓の孵化機能及び学校教育と社会人教育を連結するといった構造改革の孵化機能を果たすことを目指している。

## 2. 2010年度の実績

### 2.1 開講科目と受講実績

2010年度は共催講座として4科目を開講したが、このうち3科目は新規開講科目であった。これらの新規開講科目は国際石油に係る事柄、金融に係る事柄そして科学と社会に係る事柄を課題としており、知の市場の展開を新たな分野に広げるものであった。また、これらの科目はこれまで教育に係る経験の乏しかった社会人に講師として教育に参画する道を開いた。こうしてお茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター増田研究室は、科目の編成及び講師陣の組織化において2010年度も新規開拓の孵化機能を果たした。

一方、2010年度は関連講座としてお茶の水女子大学の学部学生と大学院生に対して、大学・大学院の単位対象科目として3科目を開講した。このうち、化学物質総合管理学と安全管理概論は知の市場で得られた知見を活用しながら知の市場における講師が、大学・大学院の正規の授業を

行うものであり、社会の現場の視点を学校教育に取り入れる意味があった。また、お茶の水女子大学の学部学生が共催講座の科目を社会人とともに受講する場合、いずれか一つの科目について履修届を提出することによってリベラルアーツ生活世界の安全保障の科目に位置付けられるリスク管理（演習）を履修したものとして2単位を取得できることとした。こうしてお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、学校教育において2010年度も構造改革の孵化機能を果たした。

2010年度の共催講座の受講者の合計は136名で1科目当たりの受講者は34名であり、2009年度の共催講座の1科目当たりの受講者41名を下回ったが、2010年度の知の市場全体の共催講座の1科目当たりの受講者32名を上回った。一方、関連講座の受講者の合計は155名で1科目当たりの受講者は52名であり、知の市場全体の関連講座の1科目当たりの受講者57名を下回った。共催講座と関連講座を合計した全体の受講者の合計は291名で1科目当たりの受講者は42名であり、知の市場全体の1科目当たりの受講者46名を下回った。その要因としてはお茶の水女子大学は規模が小さく一学年の学生や院生の人数がそもそも極端に少ないことが上げられる。なお、学部の2単位を取得すべくリスク管理（演習）として共催講座の科目を履修登録した学生は、2009年度の14名から2010年度の18名に増加した。

表1 2010年度応募・受講状況一覧

区分		科目番号	科目名	応募者 (人)	受講者 (人)	出席率 (%)	修了者 (人)	修了率 (%)	
共 催 講 座	前期	新規	CT302a	科学と社会事例研究1	47	47	61%	36	70%
		新規	CT531	国際石油論	20	20	60%	12	60%
	後期	継続	CT302b	科学と社会事例研究2	26	26	59%	12	44%
		新規	CT471	金融特論1	43	43	62%	27	54%
	合 計				136	136	60%	87	64%
関 連 講 座	前期	化学物質総合管理学 《大学院》		3	3		3	100%	
	前期	安全管理概論 《学部》		134	134		121	90%	
	通年	リスク管理（演習）《学部》 <sup>(注)</sup>		18	18		7	39%	
	合 計				155	155		131	84%
総 合 計				291	291	60%	218	75%	

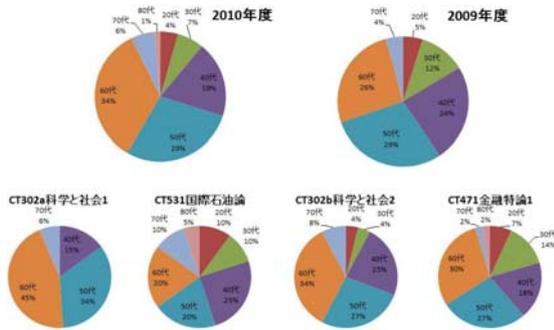
(注) 知の市場の共催講座のうちお茶の水女子大学で開講されるCT302a、CT531、CT302b、CT471のいずれかの科目を大学学部に履修登録して受講した場合、リスク管理(演習)の2単位が取得できる。

## 2.2 応募者の属性

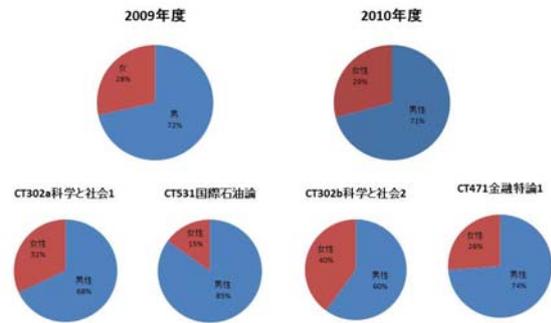
2010年度の共催講座の応募者の属性は次の通りである。

- 1) 年齢構成については、20～50歳代の現役世代が2009年度の70%に対して、2010年度は減少して59%となった。これは、知の市場全体では現役世代が80%を超えているのに比べて大きな違いである。
- 2) 男女比率については、2009年度は男性が72%、女性が28%であったのに対して、2010年度は男性71%、女性29%と大きな変動はなかった。知の市場全体と比較してもほぼ類似している。
- 3) 応募者の居住地については、2009年度は東京、神奈川、埼玉、千葉の首都圏で全体の97%を占めたのに対して、2010年度も94%とほぼ同じであった。また、2009年度に引き続き、長野、静岡といった遠方からの応募者が少なからずあった。
- 4) 業種別については、2009年度は製造業が34%と最も多かったのに対して、2010年度も製造業が32%と最も多かった。知の市場全体と比較すると、製造業の割合はほぼ同じであるが、第3次産業が20%と10%ほど低い。
- 5) 継続受講割合については、初めて受講する者の割合が2009年度には28%だったのに対し、2010年度は17%となり、新規受講者の割合が減少した。新規受講者の割合が50%を超える知の市場全体と比べてみるとその違いは顕著である。これは、知の市場の創始者として7年間にわたり継続的に開講してきた結果を反映している。
- 6) 講座を知った情報源については、2009年度はホームページとメールを合わせて69%であったのに対して2010年度は88%と、電子媒体による情報取得の比率がさらに高まった。この比率が68%である知の市場全体と比較しても電子媒体を情報源とする比率が高い。

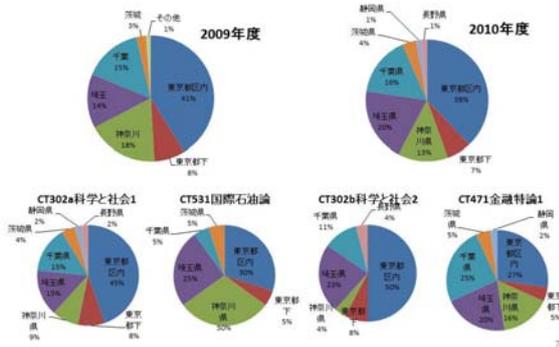
### 応募者の属性：年齢分布



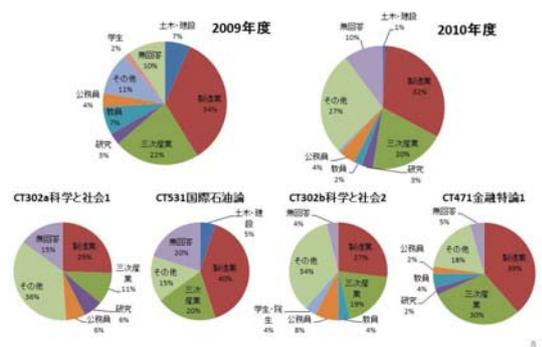
### 応募者の属性：男女比



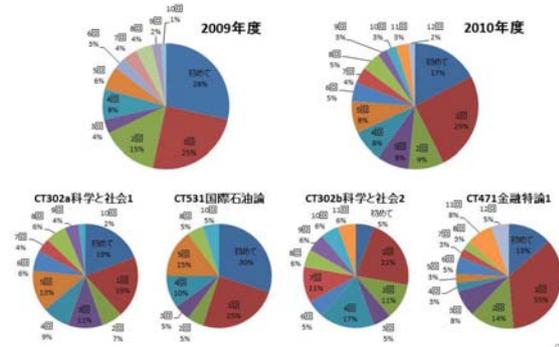
### 応募者の属性：居住地区



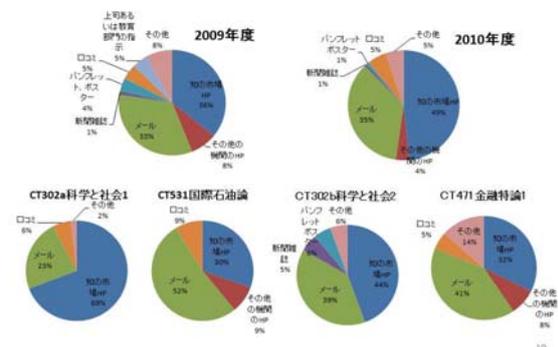
### 応募者の属性：業種別



### 応募者の属性：継続受講の割合



### 応募者の属性：講座を知った情報源



### 3. 2011年度の計画

#### 3.1 開講の方針と概要

2011 年度もお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、これまでの基本認識を踏襲しつつお茶の水女子大学という背景を踏まえて、高度な教養教育を行うことを主眼としながらも知の市場の創始者として新規科目の開拓などによる新たな分野への展開と社会の幅広い人々や機関との間の新たな協力関係の構築など新規開拓の孵化機能及び学校教育と社会人教育を連結するといった構造改革の孵化機能を果たしていく。

2011 年度に共催講座として開講する科目は 5 科目であり、1 科目が継続科目で 4 科目が新規科目である。新規科目の創設は 2010 年度の 3 科目に対し、2011 年度は 4 科目に増加する。そして、4 つの新規科目のうち 2 科目は知的財産や特許に係るこれまでにない新しい分野の科目であり、3 科目はこれまで教育に係りの薄かった企業が連携機関として開講する科目である。このように 2011 年度も新規開拓の孵化機能を果たしていく。なお、2010 年度に開講した 4 科目のうち 3 科目は孵化機能の成果とともに他の開講機関に移譲され、2011 年度は新たな機関のもとで開講される。

また、2011 年度に関連講座として開講する科目は 3 科目で 2010 年度と同じ科目数であるが、1 科目が隔年開講で入れ替わっている。そのうち 2 科目は知の市場の共催講座で得た知識や経験を活かしたお茶の水女子大学の学部学生を対象とした科目である。また、これまで通り、共催講座の科目は履修届を提出することによってリベラルアーツ生活世界の安全保障の科目に位置付けられるリスク管理(演習)を履修したのとして 2 単位を取得することができる。こうして 2011 年度も構造改革の孵化機能を果たしていく。

表 2 2011 年度開講科目

区分		科目番号	科目名－副題
共催講座	前期	新規	CT514 特許情報活用論－特許情報を活用する創造的活動の提案と紹介
		継続	CT531 国際石油論－日本とサウジアラビアの戦略的互惠関係の意義と発展のための条件を考える
		新規	CT541 金融特論 2－金融業務を通じて、リスクとリターンの正体を探る
	後期	新規	CT133 化学物質総合経営概論－化学物質総合管理を目指す国際協調活動に学ぶ
		新規	CT551 知的財産権論－知的財産権の侵害にどう対処するのか制度改革と企業戦略の方向を問う
関連講座	前期	学部	社会技術革新学概論
	前期	学部	安全管理概論
	通年	学部	リスク管理(演習) <sup>(注)</sup>

(注) 知の市場の共催講座のうちお茶の水女子大学で開講される CT514、CT531、CT541、CT133、CT551 のいずれかの科目を大学学部履修登録して受講した場合、リスク管理(演習)の 2 単位が取得できる。

## 3.2 開講科目の概要と特徴

### 1)CT514 特許情報活用論

人と情報の関わりについて特許情報を例に様々な角度から考察しつつ特許情報活用の現場での実績を基盤として特許情報活用の仕方を提案する科目を、新たな企業を連携機関として新規に開講する。

### 2)CT531 国際石油論

日々変化する国際経済と国際政治の動向において大きな影響力をもつ石油について論じる科目を、1名のプロフェッショナルな講師が2010年度の開講実績を踏まえて継続科目として開講する。

### 3)CT541 金融特論2

金融機関の業務範囲が拡大を続けている中で、市場での運用及び企業への投資、与信という各業務の現場での実績を基盤として収益チャンスとリスクについて考察する科目を、新たな金融機関を連携機関として新規に開講する。

### 4)CT133 化学物質総合経営概論

化学物質総合管理に係る国際協調活動と各国の制度の様相、日本の各セクターの化学物資総合管理能力の評価、化学物質総合経営を論じる科目を、学会を連携機関として新規に開講する。

### 5)CT551 知的財産権論

世界経済の自由化とともに知的財産権の重要性が益々高まる中で、そもそも知的財産権とは何なのかという問いから発して世界の知的財産権を先導してきた米国の実態などを論じる科目を、新たな国際特許事務所を連携機関として新規に開講する。

### 6)社会技術革新学概論

技術革新と社会変革に関して日本の社会が直面している課題について論じる科目をリベラルアーツ科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に隔年で開講する。

### 7)安全管理概論

化学物質の管理に必要な基本的な考え方を紹介する科目を基礎科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に2010年度に引き続き開講する。

### 8)リスク管理(演習)

共催講座の科目を受講し現実の社会で働く社会人の中に加わり共に学ぶことによって、社会の現況に対する理解を高めて世界において自らを活かしていくための教養の深化を図る科目として、リベラルアーツ科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に開講する。

## 4. 今後の方針

知の市場の創始者として長年の活動の中で培ってきた経験と信頼を基礎に、新規開拓や構造改革の孵化機能をさらに高めていく。